

区政のここをきく

6月25日、27日の本会議にて、一般質問が行われました

一般質問要旨

※ 二次元コードから一般質問の動画が視聴できます



西川区政20年の総括と 日暮里の街づくりについて

茂木 弘
(自民党)



西川区政20年の総括

問 我が党は西川区長の当選以来、区長と協力し、区民の幸福実現に向けて努力してきた。西川区政においては、23区内での児童相談所の先行設置、全国に先駆けた小中学校のタブレットPCの導入、ゆいの森あらかわの開設、永久水利施設の整備など、各分野で多くの取り組みを実現されてきた。多くの区民も評価していると思うが、西川区政20年の総括を伺う。また、これらの功績を花道に、勇退を考える時期なのではないかと考えるが、西川区長の見解を問う。

答 生まれ育ち、愛する荒川のまちに少しでも役に立ちたいとの一心で、平成16年に区長に就任以来、国政や都政における経験と人脈もフルに活用し、区議会にもお力添えを頂きながら、全力で区政に取り組んできた。この20年の間に手がけた2,300を超える新規・充実施策は、区民が幸せを実感できる地域づくりに、多少なりとも貢献できたのではないかと自負している。次の世代への道筋を十分に示すことができたとの思いで、今期をもって、後進に道を譲ることとしたい。



区長答弁の様子

日暮里の街づくりについて

問 西日暮里再開発は将来の区の発展に大きく関わる事業であり、他区からも集客できるような開発

になることを期待している。一方で、昨今の建築費の高騰は凄まじいものがあり、西日暮里再開発への影響を心配しており、現在の計画と進捗状況を問う。また、区が所有する文化交流施設の検討状況はどうなっているのか。この施設が再開発の鍵になると考えており、商業施設及びコンベンションホールの床取得者である東急不動産に全ての計画を任せることを考えても良いと思う。更に、再開発ビルから西日暮里駅に直結する田端寄りの改札口の設置を要望するが、区の見解を問う。

答 文化交流施設は、東急不動産と様々な可能性を模索しながら魅力ある施設を目指していく。商業施設及びコンベンションホールは、準備組合が東急不動産の提案を踏まえた検討を進めている。区としては、まち全体に賑わいをもたらす再開発となるよう積極的に取り組んでいく。また、工事費の高騰により、今後、総事業費が増える可能性は高いが、まずは保留床処分金を増額できないか再開発の組合と調整する。補助金は、国や都の財源により担保され、組合設立以降での区の持ち出しはないと認識している。改札口の増設は区も同様の認識であり、JRに更に強く要望していく。

問 日暮里駅南口の紅葉橋のバリアフリー化について、「エレベーターの設置はJRの構内工事が済むまで待つてほしい」との話が以前あったが、現状はどうなっているのか。本当はエスカレーターの設置が望ましいが、エレベーターでも構わないので、早期に設置されることを要望するが、区の見解を問う。また、京浜東北線快速電車の日暮里駅停車についても、強く要望する。

答 エレベーターの先行設置については、歩行者の分散が可能となるエスカレーターとの同時設置が望ましいと考えているが、エスカレーター設置には、地下埋設物の移設に関し、各企業者との合意形成や費用面で課題が残されている。引き続き関係機関と様々な調整を行い、検討を進めていく。京浜東北線快速電車の日暮里駅停車については、

引き続きJRに粘り強く要望していく。

問 コロナ禍を経て、公園に対するニーズが高まり、区民の要望も多様化している。日暮里地域は公園の絶対量が足りておらず、地域で唯一の大規模公園である日暮里南公園は、現在の形に整備されてからかなりの時間が経過し、施設の老朽化が進んでいる。区民のニーズを踏まえたコンセプトを持つ公園にリニューアルする時期と考えるが、日暮里南公園の今後の方針について、区の見解を問う。

答 日暮里南公園内の各施設については、これまでトイレの建て替えやパーゴラの設置など、利用ニーズに合わせて様々な改修を行ってきた。近年は地域団体によるマルシェが定期的で開催されるなど、同公園が果たす役割も少しずつ変化している。議会や地域住民等のご意見を伺いながら、計画的なリニューアルを見据えた今後の日暮里南公園のあり方について、鋭意検討を進めていく。

その他の質問項目

- 契約・入札について
- 教育について
- 子育て支援について
- 高齢者の健康を守るために



万年塀の対応とドッグランの整備について

清水 啓史

(ゆいの会 (都民ファースト・国民民主・あたらしい党・無所属))



万年塀の対応について

問 6年前の大阪北部地震におけるブロック塀の倒壊事故を受け、区は万年塀等の目視による緊急点検を行い、法令の基準内であっても予防的に対応する考え方の下、塀の撤去及び代替フェンスの設置を進めてきた。その後の万年塀の改善状況について、避難所にもなる学校施設の状況と今後の対応方針、その他区施設の状況、民地にある万年塀への取り組みについて、区の見解を問う。

答 万年塀については、目視点検等を行ったうえで改修等を順次実施している。学校施設に関しては、

3年毎に実施する劣化状況調査に万年塀の項目を追加し、適切な対策を図っていく。その他の区施設については対応が完了しており、民地については、実態調査や撤去費用の助成事業の実施、周知等の取り組みを強力に進めてきた。引き続き所有者に対し、適切な対応を求めていく。



万年塀 (参考)

ドッグランの整備について

問 区での犬の登録数は増加しており、令和3年度に7,000頭を超えた。墨田区では公園内の一角にドッグランを試験開設している。このように、公園内のデッドスペースや高架下等を活用し、柵の設置費用も抑えて試行を開始してはどうか。ドッグランの整備について、区の見解を問う。

答 ドッグランについては検討を行ってきたが、公園等においては、ボール遊び場など、より要望の大きい施設の整備を優先しており、実現には至っていない。小規模や運営方法など、これまで考えていた条件にとらわれない他区の試験的取り組みの実施状況を注視するとともに、他自治体の事例研究も行い、引き続き検討を進めていく。

その他の質問項目

- 区組織の事務分掌について
- 土地購入の考え方について



高齢者支援と子どもの居場所づくりについて

保坂 正仁
(公明党)



高齢者支援について

問 要介護・要支援者の中でも、一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯の割合が多くなっており、在宅

介護支援の強化が求められるが、区の見解を問う。

答 24時間対応の訪問介護や訪問看護事業者の更なる誘致を進めるなど、在宅介護支援の充実に向け、地域密着型サービスを積極的に展開していく。

問 「居住支援協議会」を設置し、関係機関と連携して一人暮らし高齢者の住宅確保に取り組むとともに、支援事業を更に充実させるべきと考える。

答 居住支援協議会については、関係部署・団体等を構成員として立ち上げる予定である。今後も関係機関と連携し、支援の充実に取り組んでいく。

問 弁護士会や司法書士会、行政書士会の協力を得ながら、終末期に関する相談機会を確保し、広く区民に周知すべきと考えるが、区の見解を問う。

答 様々な事業者と意見交換を行い、都の補助事業の活用も視野に入れながら、周知活動や相談体制の一層の充実に向けて検討していく。

子どもの居場所づくりについて

問 現在1か所しかないフリースクールを増設し、設置や運営に対する財政面の助成も行い、子どもの居場所の選択肢を広げるべきと考える。

答 区の補助制度の見直しを行うとともに、更なる検討を進めており、フリースクールを含めた子どもの居場所づくりへの支援を着実に進めていく。

問 長期休暇や休日の学童保育について、23区のうち17区は朝8時から受け入れ体制を整えている。区でもこの夏休みから、朝8時からの受け入れ体制を作るべきと考えるが、見解を問う。

答 学童クラブでは、長期休業期間中は保護者の勤務時間に応じて、8時15分から利用可能である。にこにこすくーるについても開室時間を早めることについてモデル実施の検討を開始している。



学童保育等の
開室時間の検討



環境にやさしい街づくりの
推進と子どもたちが豊かに
成長できる街にするために

小島 和男
(共産党)



住民参加、環境にやさしい街づくりを推進すること

問 建築費の高騰等が続く中、西日暮里駅前再開発に係る総事業費、税金投入額、公共施設整備関連事業費の現状と今後の推移について、認識を問う。

答 令和6年2月の委員会報告時から事業費に変更はない。今後、総事業費の増額が見込まれるが、国や都の財源により担保されると認識している。

問 西日暮里駅前再開発については一旦立ち止まり、「億ション」への税金投入ではなく、家賃助成制度や公的住宅確保等、住み続けることができる住宅政策に転換することを要望する。

答 これまで高齢者やひとり親家庭等への住宅支援として、助成事業等を実施してきた。再開発事業については、地域の防災性向上や賑わいの創出等を目的としており、引き続き取り組んでいく。



住み続けられる
住宅政策

問 都市計画道路の第5次事業化計画において、地元住民の反対がある補助第92号線については西日暮里4丁目区域の見直しを都に働きかけること。

答 第5次事業化計画の検討開始時期は未定であるが、具体的な検討が開始された際には、地元住民の意見について、都に確実に説明していく。

子どもが豊かに成長できる荒川区にするために

問 大規模な学童保育において、騒音や事故等の問題が起きている。国が示した学童クラブ定員40名を超える大規模学童クラブを改善し、ゆとりある体制や設備にすることを求めるが、見解を問う。

答 物理的な制約がある中で、定員の拡充を図り、適切な職員配置を行うことで、学童クラブの需要

に最大限応えてきた。引き続き、子どもたちが安心して安全に過ごすことができるよう努めていく。

問 安全安心の保育のために、荒川区独自のよりゆとりのある保育士配置基準を設定すること。

答 1歳児において、国よりも高い保育士配置基準を定めており、今後必要な支援を行っていく。



公園の役割と南千住図書館の大規模改修について

鎌田 理光
(自民党)



公園の役割について

問 天王公園の水施設は、この時期は特に人気が高く、他区から遊びに来た子どもを含め、多くの子どもたちで連日賑わっている。その人気振りは、新設予定の公園にも同様の水施設を設置してほしいとの要望が来るほどである。本施設のように、猛暑においても涼を感じ、子どもが安全に遊べるよう、区立公園内に水遊びができる施設を充実させてほしい。また、大人も涼めるよう、もっと日陰を増やしてほしいと思うが、区の見解を問う。

答 これまで、公園や児童遊園にあるパーゴラへの^{よしず}葦簀の設置や、ベンチとセットでパラソルを配置することにより、日陰を作る取り組み等を行ってきた。天王公園と日暮里南公園の徒渉池については、例年より2週間早くオープンできるよう準備を進めており、その他の公園においても、簡易的なミストの噴出装置の設置や日陰対策等を行う予定である。区民に少しでも涼を感じてもらえるよう、知恵を絞って様々な方法で対応していく。

問 豊島区のイケ・サンパークのように、公園内にカフェやキッチンカーを誘致することで、賑わいを生むきっかけを作ることができる。兼ねてから公園にキッチンカーや売店を設置すべきと提案してきたが、区は荒川自然公園においてキッチンカーの試験導入を行うと述べていた。その後の結果と今後の展望について、区の見解を問う。

答 ゴールデンウィーク中に実施した試験導入の際

には、2台が出店し、ハヤシライスや丼ぶり等が販売され、延べ200人ほどの利用があった。実施結果を踏まえ、出店者の募集方法の検討や出店要領の見直しを行っており、準備ができ次第、2回目の試験を実施する予定である。今後もキッチンカーの出店が見込める環境づくりを進めていく。



キッチンカーの試験導入の様子
(荒川自然公園)

問 花火は日本の文化・伝統として根付いており、夏休みの楽しみの一つである。しかし、花火を楽しむ場所がないという話をよく耳にする。荒川自然公園での花火イベントの回数を増やすことは以前要望したが、いつでも自由に花火が楽しめる場所が必要である。狭い公園が多い中で、近隣の住宅にも配慮が必要であることは理解できるが、広い公園において花火ができる場所を作れないか。公園の有効活用を考えると、そのようなことも検討すべきと思うが、区の見解を問う。

答 荒川自然公園においては、令和2年度から時間と人数を限定した花火イベントを実施しており、好評を得ている。花火を自由に使用できる場所づくりについては、隣家への影響が少ない広い公園であることを前提とし、近隣や他の利用者の迷惑となる課題を踏まえ、使用エリアを区切ること、親子のみに限定すること等のルールを設定することで、十分可能性がある。今後、実施条件等の検討を進め、対象の公園を選定し、町会や近隣の方にも説明をした上で、試行に取り組んでいく。

南千住図書館の大規模改修について

問 南千住図書館の大規模改修にあたっては、動線の改善や子育て世代の利便性向上、くつろげる空間の創出、会議室スペースの有効活用等の課題がある。ふるさと文化館については、子どもたちが来館したくなるような工夫や立地を生かした地域の魅力発信、入館料の無料化について検討してほしい。また、施設の駐輪場や駐車場についてもス

ペースを有効活用すべきである。リニューアルを機に、このような課題の改善を図るべきであり、多くの方に利用され、何度でも訪れたい施設を目指してほしいと思うが、区の見解を問う。

答 建物の老朽化対応をはじめ、バリアフリー対応等に配慮しつつ、各階へのアクセス性及び回遊性の改善、ミュージアムショップの新設、閲覧席の増設を行うとともに、地下視聴覚室は講演会等での利用がない時に学習室や飲食可能なスペースとし、4階を図書館フロアへ変更するなどの検討を進めている。ふるさと文化館では触ることができる展示の導入やデジタルコンテンツを活用した魅力発信等についても検討していく。引き続き、利用者のニーズを捉え、地域の特色を活かし、読書のまちづくりに資するよう進めていく。

その他の質問項目

- 人口減少社会へ向けて
- 荒川区自治総合研究所について
- 町会・自治会のデジタル化と新たな担い手の創出について
- 区内中小企業について
- 公正な選挙運動を確保する情報発信の強化



育児・子育て政策と地域猫活動について

宮本 舜馬

(ゆいの会 (都民ファースト・国民民主・あたらしい党・無所属))



育児・子育て政策について

問 先進医療を用いた不妊治療について、23区では独自の助成を行う自治体も増えている。区でも前向きに検討してほしいと思うが、見解を問う。

答 保険診療と併用した先進医療の費用に対する助成事業を都が開始しており、治療を受ける方の経済的負担は一定程度軽減されたものと考えている。

問 令和6年度の待機児童数は33名となっているが、今後どのような対策を講じていくのか。また、待機児童が多い1歳児への取り組みについて問う。

答 保育ニーズ等の動向を注視しながら、保育施設

と丁寧に協議し、可能な範囲で1歳児クラスの定員の見直しを行いながら、解消に努めていく。

問 他区で実施されている電動自転車の購入費助成について、区で助成を実施するためにはどのような課題や問題点があるのか、区の見解を問う。

答 家庭ごとに必要なものが異なるため、自由に用途が決められ、広く活用していただける支援方法により、子育て支援施策の充実を図っていく。

地域猫活動及び今後の課題について

問 地域猫活動及びTNR活動の効果検証をしっかりと行い、区として明確な回答を持つとともに、本施策が持つ効果について行政が自信を持って説明できる状況が必要と考えるが、区の見解を問う。



TNR活動

猫を捕まえ (Trap)、
不妊手術を施し (Neuter)、
元の場所に戻す (Return) 活動。

答 飼い主のいない猫の不妊手術の助成件数等は大幅に減少しており、これまでの取り組みの成果であると考えている。引き続き効果検証に努めるとともに、地域猫活動の普及啓発に努めていく。

問 飼い主のいない猫を減らしていくためには、給餌による地域猫の管理が重要である。給餌場所確保への協力について、前向きな検討を求める。

答 区施設での給餌場所の提供には、利用者の理解が必要などの課題がある。代替案も含め区も検討を行い、ボランティア活動支援に取り組んでいく。



福祉対策と郵送請求のキャッシュレス化について

松田 智子
(公明党)



福祉対策について

問 自分自身の健康や生活に関心がなくなり、自己管理ができない状態である「セルフ・ネグレクト」

への対応について、他自治体を参考に実態を把握し、該当者には速やかに公的機関が介入できるよう対応すべきと考えるが、区の見解を問う。

答 セルフ・ネグレクトについては、区職員のほか、地域住民等から情報を受け、速やかに関係者によるカンファレンスを行い、その方に適した支援を進めている。関係者への更なる普及啓発、関係部署や事業者との一層の連携強化に取り組んでいく。

問 成年後見人制度に関わる報酬について、本人の預貯金額が不足し、後見人が報酬を受領できない事例が発生している。報酬助成要件の見直し及び拡充することを要望するが、区の見解を問う。

答 成年後見制度の利用者は今後更に増えていくことが見込まれている。関係団体との意見交換や他自治体の取り組みを調査しながら、成年後見人の報酬助成のあり方について検討していく。

郵送請求のキャッシュレス化

問 戸籍謄本等の証明書を郵送請求する場合、手数料分の定額小為替を郵便局で購入し、対象自治体へ郵送する必要があるが、請求者のコストや自治体の事務量の増加等の課題がある。他自治体では支払いのキャッシュレス化が進んでおり、区においても同様の対応を要望するが、見解を問う。

答 一部の自治体等は郵送請求キャッシュレスの実証実験として、手数料の支払いをクレジットカード決済で可能とする運用を開始している。先行自治体の運用状況や課題を踏まえて、郵送請求キャッシュレス化の導入に向けて、必要な検討を行い、行政手続のデジタル化をより一層推進していく。



郵送請求の
キャッシュレス化

その他の質問項目

○健康対策について



暑さ対策及び気候変動対策の推進と区における女性支援について

北村 綾子
(共産党)



暑さ対策と気候変動対策の推進について

問 エアコンを適正に使い、暑さから命を守るため、生活保護夏季加算を設けるよう国に求めるとともに、区独自の夏季電気代支援を行うこと。

答 夏季加算を含む各種加算については引き続き国に要望を行っていく。電気代支援は国の責任において総合的な対策が講じられるべきと考える。

問 エアコンも対象となっている省エネ家電助成事業を拡充し、特に低所得世帯に対して購入助成額を引き上げ、購入負担を軽減することを求める。

答 当該事業は、世帯所得に関わらず幅広く支援しており、他区と比較しても先進的な事業となっている。引き続き温暖化対策を推進していく。



助成事業の拡充等
暑さ対策の推進

問 公園の水遊び利用期間を区民の要望に応え、開始時期を早めているが、終了は同じである。今後も状況に応じて利用期間を延長すること。

答 天王公園と日暮里南公園の徒渉池の開始時期を早める準備をしているほか、荒川自然公園のプールについても期間を延長するよう調整している。

問 区民が主体となり、気候変動と向き合う「気候区民会議」の設置について、区の見解を問う。

答 「環境区民」の考え方のもとに、区民参加による地球温暖化対策に引き続き取り組んでいく。

区における女性支援について

問 女性相談窓口は「子ども家庭部子育て支援課」に置かれているが、困難が多様化する中、相談しやすく、分かりやすい窓口にすべきと考える。

答 利用者の属性や具体的な支援策等を総合的に勘

案した上で窓口を設置した経過があり、今後も現行体制を基本としつつ、工夫して取り組んでいく。

問 中高年女性の貧困の実態を調査し、どのような支援を進めるべきか具体化することが必要である。

答 引き続き、各相談窓口等での的確な状況把握に努め、必要な支援を行っていく。



学校の整備・運営方針と教員の負担軽減について

山本 剛

（ゆいの会（都民ファースト・国民民主・あたらしい党・無所属））



最新の不動産トレンドを踏まえた学校の整備・運営方針について

問 ファミリー層の増減に伴う学校需要や、入学する児童生徒の多国籍化について、区でどのような対策を行っているのか。また、校舎の暑さ対策の現状を問うとともに、次の建て替え計画では、断熱を意識し、省エネで最先端の機器や工法を導入すべきと考えるが、区の見解を問う。

答 普通教室の不足が想定される場合は、校内の余裕教室の改修等により対応し、外国籍の児童生徒には日本語指導の教員配置等、きめ細やかな対応に努めている。暑さ対策については、小中学校の教室・体育館等への空調設備の設置や取り替えを行っており、今後の建て替え時には時代に合った機器等を選定し、断熱性能の向上を検討していく。

教員の負担軽減について

問 都が今年度導入した、教員以外の人材が担任教諭を補佐するエデュケーション・アシスタント制度は、都内の小学校に各校1名ずつ人員を配置するものであり、現場での議論や工夫が必要になると思うが、区でも早期に活用すべきと考える。教員の負担軽減策の実施状況や今後の取り組みを問うとともに、金銭面と業務負担軽減の両面で、教員の待遇改善を国や都に要望するよう求める。

答 当該制度については、令和7年度からの全校導入に向け準備を進めている。また、スクール・サポート・スタッフや副校長事務補佐等の配置を行

うとともに、都の事業を活用した小学校教科担任制の効果検証を始めており、来年度以降、順次導入を拡大していく。教員の給与面での待遇改善については、国や都の動向を注視しながら、必要に応じて現場の声を伝えていく。



エデュケーション・アシスタントの募集案内（都HP）

その他の質問項目

○暑さ対策の遮熱性舗装について



R Sウイルス感染症予防対策とゆいの森、企画・展示の更なる充実について

森本 達夫
（公明党）



R Sウイルス感染症予防対策

問 R Sウイルス感染症は風邪の症状を伴う呼吸器感染症で、近年は重症化の危険性が指摘されている。本感染症の症状や日常生活における予防方法、流行状況の周知を積極的に行うなど、感染予防への注意喚起をすべきと考えるが、区の見解を問う。

答 R Sウイルス感染症は子どもや高齢者等が重症化する感染症として対応が必要である。区では、手洗い等の基本的な予防啓発等の他、ホームページで毎週感染状況をお知らせしている。今後も、区報やSNS等で注意喚起等を行っていく。

問 昨年、日本で初めてR Sウイルスワクチンが薬事承認され、対象者への接種を開始した。感染の予防策として期待されているが、費用は2万円を超え、高額な負担となっているため、費用助成を検討するよう要望するが、区の見解を問う。

答 R Sウイルスワクチンの定期接種化について、国の議論が開始されたばかりである。接種費用の

助成はその議論を踏まえ検討していく。区としては今後も国の動向等を注視し、感染予防の注意喚起等により区民の健康支援に取り組んでいく。

ゆいの森、企画・展示の更なる充実

問 ゆいの森あらかわの集客力を活かし、エントランスホールでの読書に関すること以外の展示やイベントの実施、吉村昭記念文学館における発信方法の工夫など、企画・展示を充実させ、より愛される施設にすべきと考えるが、区の見解を問う。



◀ ゆいの森あらかわエントランスホール

答 展示や企画の充実は重要な視点と認識しており、視覚的インパクトも意識した展示を行っていく。吉村昭記念文学館においても特別展示や関連イベントの実施と併せ効果的な情報発信を行い、一人でも多くの方に吉村文学の魅力等を届けていく。

その他の質問項目

○災害時・避難支援者保険の導入



災害時のトイレ対策と
ヤングケアラーの支援策について

増田 峰子
(公明党)



災害時のトイレ対策について

問 災害時の移動式トイレについて、発災時に全ての一次避難所に「トイレトレーラー」及び「トイレカー」を配置できるよう、より多くの事業所と協定を結ぶべきと考えるが、区の見解を問う。

答 災害時応援協定の締結を進めており、移動式トイレについても供給を受ける体制を確保している。今後、新たな災害時応援協定を通じて、移動式トイレの更なる確保・充実に努めていく。

問 発災時のトイレの重要性を改めて区民に認識し

てもらい、普及啓発を図るためにも、携帯トイレの全戸配布を要望するが、区の見解を問う。

答 現在、約67万個の携帯トイレを備蓄しており、今後、備蓄の更なる充実に努め、様々な機会を通じて、家庭での備蓄の普及啓発に努めていく。

ヤングケアラーの支援策について

問 11月の児童虐待防止月間に合わせ、ヤングケアラー周知調査強化月間を設けてはどうか。また、ヤングケアラーの発見のため、子どもに関わる各機関への調査の実施を要望するが、見解を問う。

答 ヤングケアラーの認知度を高めるため、適切な時期を推進月間とし、様々な機会を捉えて周知を図るとともに、関係機関への調査についても、所管部署と連携を図り、検討を重ねていく。

問 学校を始めとする関係機関等からのヤングケアラーに関する相談に対し助言を行い、適切な支援に繋ぐ「ヤングケアラー・コーディネーター」の設置を要望するが、区の見解を問う。

答 ヤングケアラーを早期に発見し、適切な支援に繋げられるよう関係機関との連携を強化するとともに、ヤングケアラー・コーディネーターの設置について調査研究を進め、支援を充実させていく。



◀ ヤングケアラー・コーディネーターの設置

その他の質問項目

○観光振興について



質問者氏名横の二次元コードから
一般質問の動画が視聴できます。

